

県研究主題

生きる力としての豊かな人間性をはぐくむ道徳教育の指導及び評価の工夫・改善

提案1

提案者 周東 誠 (相模原地区)

<研究主題>

互いに認め合う道徳の授業をめざして  
－ 伝え合い、学び合う実践を通して －

1 提案内容

本研究では、話し合いや互いの考えを聞きあう中で、自分と人との「違い」を知り、多様な感じ方や考え方があることを理解し、その上で学級での人間関係を深めながら、お互いを認め合い、尊重していくことができるようにすることを目指す。

(1) 具体的な手立て

① 学級経営についての取り組み

「信頼」をキーワードに、よりよい人間関係を築かせるために3点に重点をおいて指導を行った。

ア 話すことに抵抗感をなくすための工夫

考えが整理されていない状態でも「自分の言葉で伝えること」や「違いを否定しないことを繰り返し指導してきた。具体的には、朝の会などで一つのテーマに沿ってみんなで話し合う経験を積み重ねた。また、全体に向かって話すよう、教師の立ち位置を変えたり、声が全体に届くよう子どもにも声掛け行ったりした。

イ 話を聴くための工夫

聴き手を育てるために、「うなずきながら聴くこと」、「話す人を見ること」、「自分の考えと比べながら聴くこと」を意識させながら取り組んだ。

ウ コミュニケーションを図るための工夫

朝、みんなで大きな声で歌い、帰りの会ではグループで協力してできるミニゲームに取り組んだ。

② 道徳の時間における取り組み

多様な価値観への気付きや理解を深め、道徳的価値の自覚を促すよう、以下の3点に重点をおいて取り組んだ。

ア 自分の考えを表現する工夫

ワークシートに自分の考えを書き、整理してから話し合いにのぞむようにさせた。また、新しい自分の価値をつくったり、考えを深めたりする手立てとして、相互指名での授業を実践した。

イ 話し合いの工夫

ペアトークから全体へという流れで授業を進めた。自分の発表が終わった後に、「つながる人はいますか。」と付け足すことを定着させた。また、教師が児童の考えを代わりに発表したり、学級通信にのせたりすることで、より多くの考えに触れることができるようにした。

ウ 心に響く資料の選定

資料を選定するとで、「命」についての考えをより深めていきたいと考えた。そのため、ねらいをしっかりと分析し、明確にしてから資料の選定を行った。

## (2) 成果と課題

### ① 学級経営についての取り組み

仲間同士がお互いに信頼し合い、自分と違う考えの友だちも受け入れていこうとする姿勢が見られるようになってきた。また、自分の考えと友だちの考えを照らし合わせることができるようになり、「聴く姿勢」が育ってきた。

### ② 道徳の時間における取り組み

#### ア 自分の考えを表現する工夫

ワークシートに自分の考えを書く活動は有効な手段であった。相互指名では、指名されることで友達と同じ意見であっても自分の意見を述べることで、考えを整理し、自己を理解することに繋がった。

#### イ 話し合いの工夫

少人数での話し合いは、自分の考えを発信できない児童にとっては有効であった。全体の前でも、児童同士で話し合いが積極的に行えるようにしていきたい。

#### ウ 心に響く資料の選定

1時間の中で、何について考え、話し合い、深めていくのかを把握しておくことが大切である。今回は価値への深まりが足りなかったところがある。児童が自己の生き方を振り返り、価値を深めていけるような授業展開を工夫していきたい。

## 2 協議内容

### (1) 時間配分とペアトークの様子について

→ペアトークの時間は5分間、相互指名の時間は10分間。

向きあって話しながらペアトークを行うようにさせた。ペアによっては、他の方向へ話しが進んだところもあった。他の教科でもペアトークは行っている。

### (2) 板書計画について

→当初計画していたものとは異なってしまった。ぶれてしまったところがあったので、板書がうまくまとまらなかった。

### (3) 価値分析について

→1学期で3回ほど行った。命について児童が考えるものをまずあげ、それらを分類し、有限性について今回は取り上げることにしうえて、資料を選定した。

### (4) 課題把握について

→他の教科において、命と関わる題材を取り扱った時に、道徳でも話し合うことを事前に伝えておく。

## 3 まとめ

(1) 学級経営がよりよい人間関係をつくり、それが各教科にも伝わっていく。

(2) 道徳においては、「心に響く」ことが大切である。そのためには、普段の子どもたちの様子を思いうかべ、感動・共感を与えられるような資料を選定することが大切である。また、今回の授業のように実物を用意したり、写真などを掲示したりすることも効果的である。

(3) 相互指名は難しい。めあてとするものから離れてしまうこともある。その時は、意図的指名で軌道を修正する必要がある。

(4) 今回のように長い資料を扱う場合は、1時間の中でしっかり時間配分をしていくことが大切である。

(5) 板書においては、子どもたちが黒板を見ることで授業の内容をもう1度振り返ることができるようなものにしておく必要がある。

(6) 道徳とは、分かっていることを分からせるものである。手立てにより価値を深めて、子どもたちに実感させていくことが大切である。

## &lt;研究主題&gt;

道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育てる授業づくり  
 ～実践につながる終末の工夫に着目して～

## 1 提案内容

平塚市では、実践的指導力の向上と授業公開を含む家庭・地域との連携や体験活動との関連を考慮した、道徳指導の工夫・改善に取り組んでいる。また、平成21年度の神奈川県小学校教育課程研究会研究主題を受け『道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育てる授業づくり』を目指すとともに、道徳教育についての評価についても研究してきた。

1時間のうちにすべてを完結させるのではなく、子どもたちが授業後にも道徳的意識を持続でき、実践意欲につながるような投げかけをするなどといった、道徳の時間の中で子どもたちが考え、感じたことを日常生活の中で役立てるための終末の工夫についても併せて研究する必要があると考えた。

## (1) 主題にせまるための手立て

- ①人間の弱さの自覚から始まる授業づくり…導入で、現実の自分を自覚させる工夫が必要
- ②授業展開の工夫…板書計画を丁寧に・動作化・ひとつひとつの発問を吟味
- ③終末の工夫…ワークシート・登場人物への手紙・歌など

## (2) 研究実践から

実践授業…3年 主題名：心をつなぐ言葉（2－1礼儀） 資料名：『心をかえる一言』

## ①資料について

⑦学級でよく起こりうる事例を題材にして取り上げているため、児童たちも自分の発する言葉や態度の大切さを率直に感じ取ることのできる資料だと考えた。

## ②主題にせまるために

⑦人間の弱さの自覚から始まる授業づくり

→本当は友達を大切にしたい（理想）のに、つい相手をいやな気持ちにする言葉を言ってしまう（現実）ことを確認する。

④挿絵の提示とセリフの表示→2つの場面を比べられるよう工夫

⑦動作化による意識づけ

⑤じっくりと考えさせる3段階の発問

→現実と理想のギャップを知り、理想の通りに行動できないのはなぜか、どうすれば理想の通りに行動することができるのかを考えさせることで、より行動につながる。

★3段階とは…

- ①お話に出てくる人物を見て、みなさんはどのようにしたいと思いますか。（理想）
- ②ぶつかってしまったら、カッとしてしまったらするとどうですか。（現実）
- ③どうしたら、カッとしたときなども、理想のように行動できるのでしょうか。（理想と現実を知った上で、理想のように行動するためにどうすればよいか）

## (3) 成果

《主題にせまるための手立てについて》

- ①人間の弱さの自覚から始まる授業づくり→普段の何気ない生活場面を取り上げ振り返ること、現実の自覚から入ることができた。
- ②授業展開の工夫→板書の工夫や動作化により、登場人物の気持ちを体験し、雰囲気を知ることができた。それにより、理想とは違っている現実の自分をしっかりと把握することができた。
- ③終末の工夫→3段階の発問を行ったことで、子どもたちが自分の言葉で現実と理想の間で葛藤している気持ちを表すことができた。

#### (4) 課題

- ①「終末でワークシートを書かせる際の発問」を子どもたちにどう問いかけるか。
- ②動作化を行う際、聞き手への指導をしっかりと行い、実際の雰囲気近づけるようにすることが大切。
- ③授業のまとめは、個人の考えを落ち着かせたり見つめ直したりといった時間に充てられることが多いが、書いたものを見合うなどして、考えを拡げていく時間として使うこともできるのではないか。

#### 2 協議内容

##### (1) 終末の3段階の発問について

- 現実～理想へレールをしいてしまうような気がする。教師の教え込みになりがちでは。
- 理想も現実もどちらも現実なのは。理想とする思いも常に持っているはず。だから、行為についての発問ではなく、内面の（気持ちの）発問をすることが大切なのは。
- 「～どんな思いがあるのか。」という発問にしたらどうか。あやまればよいということではなく、もっと深めて。「そういう思いを持っていることがいいんだ。」と分からせたい。クラスの中でそういう子を紹介することで、自信になる。『友だち同士で探し合おう』と今後の活動につなげることも…。

##### (2) 動作化について

- 体験することで、思いが広がる。友だちがやっているところを見て、客観的に考えることができる。

#### 3 まとめ

題材そのものは、子どもたちに合っていたのではないかと。学習指導要領にある『道徳の時間に生かす教材』を参考にするとよい。また、日常生活を共にしている教師が「これはいい教材になる。」と思えたのであれば、間違いないはず。

言語活動の充実という点から見て、『書く』ということを取り入れるのはよい。今後も継続していくことが大切。

授業の中で、教師が「先生も、つい言い合いになってしまうことがあります。」と言う。子どもたちと同じ目線で考えていこうとしていることで、子どもたちは共感し安心感が得られる。

#### 4 グループ協議

【ワークショップ型グループ協議 テーマ：道徳の授業で大切なこと】

#### 5 まとめ

##### (1) 教育活動全体を通じて行う道徳

- ・道徳教育の全体計画が必要。学校の重点目標を中心におき、実効性のある全体計画を。

##### (2) 道徳の時間の質を高める授業改善

- ・道徳の時間における言葉・自分の考えを基に表現する機会の充実を。
- ・自らの成長を実感できるようにする工夫・指導体制の充実を。